

作家デビュー15周年 **中山七里** 著累計**190万部**突破！“岬洋介”シリーズ待望の最新作

『とどけチャイコフスキー』 11/7発売

今年作家デビュー15周年を迎えた中山七里氏による推理小説『とどけチャイコフスキー』を、2025年11月7日（金）に発売します。本書は、中山氏のデビュー作でもある『さよならドビュッシー』から続くシリーズ10作目となる最新刊です。

シリーズはピアニストの岬洋介が周囲で起こる事件を解決する内容で、推理小説ファンや音楽ファンを中心に幅広い世代から人気を博し、シリーズは累計190万部を突破しています。

シリーズ最新刊の舞台はロシア。文化的鎖国状態のモスクワで音楽院学部長が密室で殺された事件を追う岬が、事件の真相を追いながら自身のルーツにも迫る、ファン必見の内容となっています。



『とどけチャイコフスキー』
発売日：2025年11月7日
価格：1870円（税込）

【あらすじ】

ショパン・コンクールで5位入賞し、現在はモスクワ音楽院で教壇に立つヴァレリー。ロシアはウクライナとの国際情勢の影響で海外アーティストの公演を取り止めるなどの文化的鎖国ともいえる制裁をとっており、他国の音楽に触れることが生徒の成長に繋がると考えるヴァレリーにとってはもどかしさを抱えていた。

そんな折、ショパン・コンクールで競った岬洋介がロシアでコンサートを開催することを知り、岬に学内で演奏してもらう約束をとりつけるが、ボリス学部長からは猛反対を受ける。そしてその晩、ボリス学部長は密室状態の宿舎で何者かに殺害された。

警察は学院内部の犯行を疑い、ヴァレリーをはじめ、学生にも疑いの目を向け拷問し――。

岬はヴァレリーたち音楽家を守るため、そして自身のルーツを辿るために事件の真相を追う！

記念すべきシリーズ10作目！著者・中山氏からのメッセージ



取材・テレビ出演可能です！

シリーズ10作目にして、ようやく岬洋介のルーツを語れる機会を得ました。実は『いつまでもショパン』の頃から設定していたのです。

中山 七里(なかやましちり) プロフィール

1961年、岐阜県生まれ。『さよならドビュッシー』にて第8回『このミステリーがすごい！』大賞・大賞を受賞し2010年デビュー。ほかの著書に『いまこそガーシュウィン』『連続殺人鬼カエル男』『総理にされた男』『護られなかった者たちへ』『境界線』（以上、宝島社）、『能面検事』（光文社）『氏家京太郎・奔る』（双葉社）、『棘の家』（KADOKAWA）、『ヒポクラテスの困惑』（祥伝社）、『作家刑事毒島の暴言』（幻冬舎）、『彷徨う者たち』（NHK出版）など多数。